

2023年3月期 第3四半期 決算概要

2023年2月9日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



CAFOの武藤でございます。2023年3月期 第3四半期の決算概要を説明いたします。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

第3四半期決算のハイライト

■ 売上収益

- 四半期として過去最高を更新
- 懸案の中国を含む全地域において、為替影響除いても前同比伸長

■ 営業利益

- 前同比30%超、前四半期比では更に大幅増
- 対象事業・地域を拡大して価格政策を積極化
- 前四半期に引き続いてポートフォリオ整理を推進（栄養事業）

■ 業績予想の修正

- 売上収益は主に為替影響を反映（Q4想定レート：USD130/EUR140）
- 利益はマクロ環境悪化と新規事業立ち上がり状況を反映して下方修正

まず始めに、本決算のハイライトです。
売上収益は、Q2に続き2千億を超えて、過去最高を更新しました。
新型コロナ影響が心配された中国を含めて、全カンパニー・全地域が
為替を除いても増収を果たしました。
利益について、前同比で30%を超える増加、Q2との比較ではさらに
大幅増となりました。
値上げは対象事業・地域をさらに拡大して、積極的に実施しました。
また、Q2に続き、ポートフォリオ整理を進めて、ホスピタルケアソリュー
ション事業の中にあつた栄養食品の事業売却を完了し、その売却益
約39億円を計上しました。
これらQ3までの実績等を考慮し、業績予想修正を行います。
売上収益は主に為替影響を反映し、上方修正します。
利益については、マクロ環境の悪化と新規事業である血漿イノベー
ションの立ち上がりを反映して下方修正します。

P&L実績

■ 売上収益は四半期・累計ともに過去最高を更新

■ 営業利益は第3四半期単体で前同比・前四半期比ともに大幅増、TMCS・HCS栄養事業売却益を含む

金額 (億円)	FY21 Q3累計	FY22 Q3累計	増減率	為替除く増減率	FY21 Q3	FY22 Q3	増減率
売上収益	5,235	6,180	18%	6%	1,788	2,147	20%
売上総利益 (%)	2,788 (53.3%)	3,183 (51.5%)	14%	3%	926 (51.8%)	1,114 (51.9%)	20%
一般管理費 (%)	1,463 (27.9%)	1,785 (28.9%)	22%	9%	507 (28.4%)	615 (28.6%)	21%
研究開発費 (%)	375 (7.2%)	456 (7.4%)	22%	8%	128 (7.2%)	159 (7.4%)	24%
その他収益費用	-6	-7	-	-	-5	35	-
営業利益 (%)	945 (18.0%)	935 (15.1%)	-1%	-6%	286 (16.0%)	375 (17.5%)	31%
調整後営業利益 (%)	1,072 (20.5%)	1,096 (17.7%)	2%	-6%	330 (18.5%)	392 (18.2%)	19%
税引前利益 (%)	930 (17.8%)	921 (14.9%)	-1%		278 (15.5%)	375 (17.5%)	35%
当期利益 (%)	717 (13.7%)	702 (11.4%)	-2%		217 (12.1%)	299 (13.9%)	38%

期中平均レート(USD/EUR)

111円/131円

136円/141円

114円/130円 142円/144円

©TERUMO CORPORATION

4 / 26

TERUMO

PLの実績です。

売上収益は、四半期として過去最高を更新、累計も6千億を突破しました。前同比18%増加です。

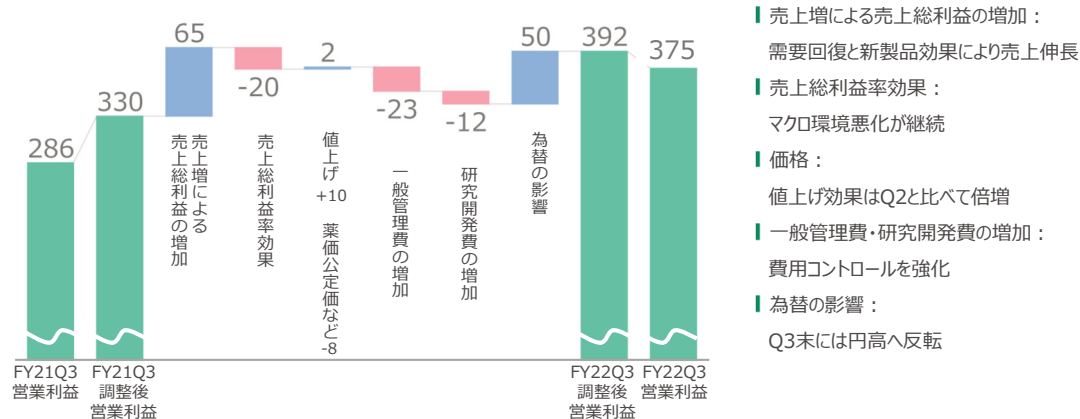
Q3のみの数字ですが、売上総利益は前同比で改善しました。

営業利益は375億円で前同比31%増となりました。これには、栄養事業の売却益約39億円を含みます。

累計の調整後営業利益は増益に転じました。

営業利益増減分析（Q3）

（億円）



©TERUMO CORPORATION

5 / 26

TERUMO

Q3の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」は65億円となりました。需要回復に加え、新製品効果により売上が伸びました。

「売上総利益率効果」はマイナス20億円ですが、インフレ影響の絶対額は拡大しました。

価格について、値上げ効果は10億円となり、Q2からさらに増えました。

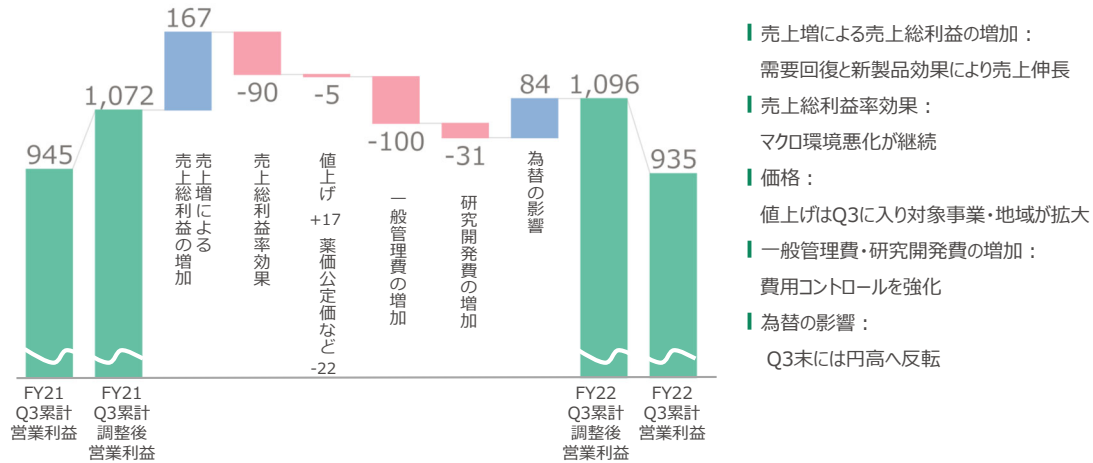
11月にメディカルケアソリューションズの国内でも値上げを実施するなど、カンパニー・地域を問わない取り組みの成果が出ました。

一般管理費については、Q3から費用コントロールを強化しました。

「為替の影響」について、期末には円高に反転したため、ストックによるマイナス分が縮小しました。

営業利益増減分析（Q3累計）

(億円)



©TERUMO CORPORATION

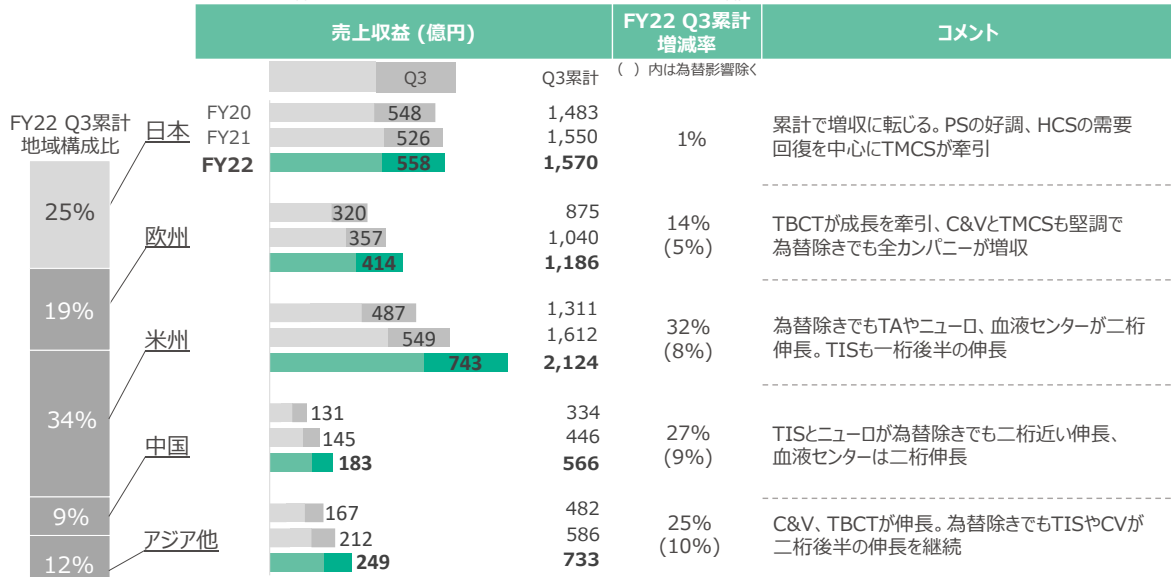
6 / 26

TERUMO

こちらは、累計の営業利益増減分析です。
 前のスライドでご紹介したQ3のプラスの効果が同様に累計の増減にも表れています。
 値上げ効果は17億円まで拡大しました。

地域別売上収益

C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー
 TIS: 血管内治療システム、CV: カーディオバスキュラー、TA: テルモアオルテック(血管)、HCS: ホスピタルケアソリューション、PS: ファーマシューティカルソリューション



©TERUMO CORPORATION

7 / 26



地域別売上収益です。

日本は、累計で増収に転じました。ファーマシューティカルソリューションが好調、ホスピタルケアソリューションの需要回復もあり、TMCSが牽引しました。

欧州は、TBCTが好調で、C&VやTMCSも堅調で、為替除きでも全カンパニーが増収です。

米州は為替除きでTA、ニューロ、血液センターが二桁伸長し、TISも一桁後半の伸長をしました。

中国は、新型コロナの影響を受けましたが、TISとニューロが為替を除いても二桁近い成長で、TBCTは二桁成長と牽引しました。

アジア他は、C&VとTBCTが伸長、中でもTISとCVは為替を除いても二桁成長を維持する好調でした。

C&V:

為替影響除いても+6%成長継続。中国は一桁後半増を維持
利益は為替影響や費用コントロールにより、前同比・前Q比とも増益

(億円)

	Q3累計			Q3			コメント	Q3累計 売上増減
売上収益	()内は為替影響除く						TIS : 治療領域では新製品含むPTCAガイドワイヤー、アクセスではクロージャーデバイスやシースなどの売上が拡大	+441
	2,384	2,944	3,589	890	1,001	1,235		
セグメント利益	()内は為替影響除く						ニューロ : 中国が販売網拡大による伸長 CV : 新型コロナの影響により、日本の症例数が回復せず TA : 胸部ステントグラフトのRelay Proが好調。日本では適応も拡大。Thoraflex Hybridなどその他の製品も好調	+103 +46 +55
	560	723	836	240	215	307		
利益率	FY20	FY21	FY22	FY20	FY21	FY22	利益 : 為替影響のほか、費用コントロールも強化	
	24%	25%	23%	27%	22%	25%		

©TERUMO CORPORATION

8 / 26

TERUMO

カンパニー別の業績です。まず、心臓血管カンパニーです。全体の売上収益は、為替を除いて+6%成長を継続しています。中国も同じく一桁後半の成長を継続しています。TISは、新製品の加わったPTCAガイドワイヤーや、クロージャーデバイスなどの売上が伸びました。ニューロは、中国が販売網拡大による伸長を見せました。CVは、日本の手術症例数の回復が遅れていますが、引き続き伸長を維持しています。血管は、胸部ステントグラフトRelay Proが好調で、日本では大動脈解離への適応追加承認・保険適用を受けました。欧米ではThoraflex Hybridなど、他の製品も順調に売上を伸ばしました。セグメント利益は、為替の影響のほか、費用コントロールが寄与し、増益となりました。

TMCS:

HCSの日本需要に回復の兆し。PSは新製品も加え高成長
マクロ環境悪化を受け日本で値上げ実施

(億円)

	Q3累計			Q3			コメント	Q3累計 売上増減	
売上収益	()内は為替影響除く						HCS ホスピタルケア ソリューション： LCS ライフケア ソリューション： PS ファーマシューティカル ソリューション：	輸液領域の医療器・医薬品など、日本の需要に回復の兆し。癒着防止剤も拡大。11月に実施した医療器の値上げも寄与 自己血糖測定向け製品群は競争激化により減収も、今Qの体温計・血圧計需要は回復 共同開発コンビネーション製品「ジーラスタ®皮下注3.6mgボディポッド」を協和キリン株式会社が発売開始	+30 -12 +49
	1,290	1,387	1,455 +5% (+2%)	472	468	517 +11%			
セグメント利益	205	193	126 -35% (-27%)	88	59	45 -25%	利益	日本の電気代上昇などマクロ環境悪化による影響、為替影響も続く。値上げは11月から日本のHCSなどの医療器で実施	
利益率	16%	14%	9%	19%	13%	9%			

©TERUMO CORPORATION

9 / 26



TMCS、メディカルケアソリューションズカンパニーです。

Q3の売上は500億円を超え、前同比+11%となりました。HCS、ホスピタルケアソリューションの国内需要に回復の兆しがみえ、PS、ファーマシューティカルソリューションは新製品も加えて高成長でした。

ホスピタルケアソリューションは輸液領域の医療器・医薬品などの国内需要に回復の兆しがあらわれ、癒着防止剤も拡大しました。11月に実施した医療器の値上げも寄与しました。

ライフケアソリューションは、自己血糖測定向け製品群の競争激化による価格下落で減収が続いていますが、Q3単体は前同比で体温計・血圧計の需要が回復しました。

ファーマシューティカルソリューションは、協和キリン社と共同で開発したコンビネーション製品「ジーラスタ皮下注ボディポッド」も加わり、順調に売上を伸ばしました。

セグメント利益は、国内の電気代上昇などインフレ影響は拡大していますが、これに対する値上げを11月に国内の医療器で行いました。為替影響も続いています。

TBCT:

海外の血液センター事業が好調、為替影響除いても二桁成長を継続
 血漿イノベーションの直近アップデート：先週末、ノモグラム v2 IDE承認取得

(億円)

	Q3累計	Q3	コメント	Q3累計 売上増減
() 内は為替影響除く				
売上収益	810	902	血液センター：	+180
		1,134	海外が引き続き好調。成分採血キットや全血採血における自動化イノベーションなどの売上が増加	
		+26% (+10%)		
セグメント利益	144	172	アフレスシ治療：	+42
		129	血漿交換療法や造血幹細胞採取を用いる症例数の増加により売上が拡大	
		-25% (-26%)		
利益率	18%	19%	細胞処理：	+10
		11%	細胞治療の持続的成長による堅調な需要	
		19%		
	18%	19%	利益	
	19%	17%		新規事業立ち上げ中、マクロ環境悪化も継続
	11%	10%		

©TERUMO CORPORATION

10 / 26



TBCT、血液・細胞テクノロジーカンパニーです。

売上収益は、このQ3も好調で、為替を除く二桁の成長を継続しています。

血液センターは、海外が引き続き好調で、成分採血のディスプレイや、全血採血における自動化イノベーションが欧米中心に伸びました。原料血漿採取システム「Rika」の展開は、着実に歩を進めていますが、引き続き、売上に対して費用が先行しています。

アフレスシ治療は、使用される症例数の増加により、売上拡大が続いています。

細胞処理は、細胞治療の持続的な成長により需要は堅調です。

セグメント利益は、新規事業の血漿イノベーションは立ち上げ中で、マクロ環境悪化の影響は続いています。

血漿イノベーションの直近アップデートとして、ノモグラムのバージョン2がIDEの承認を取得しました。

業績予想の修正

()内は為替影響除く

金額 (億円)	FY21 実績 (A)	FY22 従来予想 (B)	FY22 修正予想 (C)	修正額 (C)-(B)	増減率 (C)÷(A)
売上収益	7,033	7,750	8,150	+400	+16% (+5%)
営業利益	1,160	1,320	1,220	-100	+5% (-2%)
(%)	16.5%	17.0%	15.0%		
調整後営業利益	1,344	1,510	1,430	-80	+6% (-3%)
(%)	19.1%	19.5%	17.5%		
当期利益	888	1,000	915	-85	+3%
通期 業績予想前提レート(USD/EUR)		125円/135円	135円/140円		
Q4 業績予想前提レート(USD/EUR)		125円/135円	130円/140円		

()内は為替影響除く

カンパニー別 金額 (億円)	売上収益					調整後営業利益				
	FY21 実績 (A)	FY22 従来予想 (B)	FY22 修正予想 (C)	修正額 (C)-(B)	増減率 (C)÷(A)	FY21 実績 (A)	FY22 従来予想 (B)	FY22 修正予想 (C)	修正額 (C)-(B)	増減率 (C)÷(A)
C&V	3,971	4,445	4,752	+307	+20% (+7%)	932	1,134	1,115	-19	+20% (+3%)
TMCS	1,853	1,923	1,933	+10	+4% (+1%)	236	223	171	-52	-28% (-22%)
TBCT	1,206	1,380	1,463	+83	+21% (+4%)	208	182	151	-31	-28% (-29%)

©TERUMO CORPORATION

11 / 26

TERUMO

さて、当社ではこのたび業績予想の修正を発表いたしました。売上収益につきましては、為替影響を反映して、従来予想から400億円上回る8,150億円に修正します。Q4のドルは130円、ユーロは140円の前提です。

営業利益につきましては、従来予想からマイナス100億円の1,220億円に修正します。

インフレ影響が下期には軽減する期初の想定が外れ、さらに国内の電気代上昇など拡大しています。また、TBCTの血漿イノベーションの立ち上がりの遅れ状況も加味しました。

■ 配当予想の修正

■ 配当性向30%実現

■ 22年度は年間40円へ（従来予想から2円増配）

	従来予想 (Q2)	今回予想
配当/株（円）	38.0円 中間19.0 期末19.0	40.0円 中間19.0 期末21.0
配当性向	28.4%	32.8%

※22年度業績予想（今回修正予想） 当期利益：915億円、EPS：121.90円

また、今期の配当予想ですが、短期的な利益だけでなく5カ年成長戦略（GS26）の進捗を見据え、安定的に増配を実施していきます。従って前回予想からさらに2円増やして、年間40円とします。

企業価値向上 新施策

■ 成長戦略の積極化

- M&A推進を積極化
- 重点分野：全方位を視野に入れつつ、静脈やCDMO・糖尿病などを注視

■ 収益性改善の加速

- FY23も世界的に価格政策の見直しを継続
- VC2成果刈り取りの前倒しでインフレ圧力を跳ね返す

■ 資本政策の強化

- 配当性向から総還元性向へ移行
- 資本効率向上・財務レバレッジを高める

■ サステナビリティ経営の推進

- サステナビリティ委員会設置
- 役員への将来企業価値目標の導入

©TERUMO CORPORATION

13 / 26

 TERUMO

一昨年にGS26を発表しました。そのGS26も2年目を迎え、いよいよコロナも一旦の目途が立った今、企業経営としては、この機会を更なる企業価値向上のタイミングであると捉えています。

そこで本日は、新たに設定した企業価値向上の4つの施策についてご説明します。

1つ目は、M&Aの積極化です。これまで、テルモはオーガニックとM&Aの2軸で成長を加速させてきました。これまでの成長領域に加えて、静脈やCDMO、糖尿病など、テルモが新たに考える成長領域も視野に入れて積極的にM&Aに取り組んでいきたいと思えます。

2つ目は、収益性改善の加速です。すでに今年度下期から実施しています価格政策見直しを事業、地域に関係なく拡大していきます。また、VC2については、コスト競争力のあるコスタリカ、ベトナムへの生産シフトの加速、自動化モデルの展開、GBS稼働など収益改善策の前倒しに取り組んでいます。

3つ目は、資本政策の強化です。安定した増配を継続し配当性向を向上させ、更に自己株式取得の適切なタイミングでの実施で総還元

性向として、この5カ年期間において50%水準を目指します。利益の再投資はもちろん、資金調達は有利子負債を活用することで財務レバレッジを高め、ROE向上へ結びつけていく。収益性、資本効率性を高め、総合的に企業価値を一層向上させていく。

最後に、サステナビリティ経営の推進です。先日、サステナビリティ委員会を4月1日に発足することを発表しました。

また、本日、GS26のESG・CSVの重点テーマを役員の業績評価に組み入れて責任をもって進める制度改定について発表しました。サステナビリティについてもガバナンスを効かせて進めていきます。

この4つの施策で企業価値向上を進めます。今後、定期的に実績、進捗報告をしていきます。

以上で、決算説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

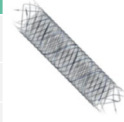
参考資料

製品パイプラインとトピックス

※ C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー、
TIS: 血管内治療システム、TA: テルモアルティック (血管)、HCS: ホスピタルソリューション、LCS: ライフケアソリューション

主要製品の発売・適応取得状況

領域	一般名	製品名	FY21まで (全て完了)	FY22 完了/更新	FY23以降
TIS	薬剤溶出型冠動脈ステント	Ultimaster Nagomi	日本で販売	欧州で発売	アジア・中南米で 発売
ニューロ	血流改変ステント	FRED X	欧州・米国で販売	米国で拡販、地域拡大	
TA	胸部大動脈ステントグラフト	Relayシリーズ	欧州で販売、 米国・日本で 瘤の適応取得	米国で解離と 外傷性損傷、 日本で 解離の適応取得	品種追加、 RelayBranchの 臨床試験を実施
HCS	汎用輸液ポンプ	テルフュージョン輸液ポンプ18型	日本で販売	アジアで発売	欧州・中南米で発売
LCS	パッチ式インスリンポンプ	メディセーフウィズシリーズ	現行モデルを 日本・欧州で販売	改良品を 日本で発売	Diabeloop社との AIDシステム連携、 地域拡大検討
TBCT	細胞増殖システム	Quantum Flex	Quantumを グローバルで販売	品種追加として Quantum Flexを発売	細胞処理事業で 二桁成長を目指す



FRED X



RelayPro

主なトピックス

- 全社 : 自己株式取得を終了し、取締役会決議に基づき消却 (2023年1月)
- C&V : Ultimaster、フランス高等保険機構が1カ月DAPTの有効性を認定 (2022年12月)
- TMCS: 新留置針「サーフローZERO」を発売開始 (2023年1月)

売上明細 (地域別・事業別)

2022年度 第3四半期 セグメント別売上収益

Revenue by Segment for the Third Quarter of FY2022

(百万円 / millions of yen)

		Q3 YTD FY2021							Q3 YTD FY2022							構成比 % to total							
		日本 JPN	海外 Overseas	欧州 Europe	米州 Americas	中国 China	アジア Asia and others	合計 WW	日本 JPN	%ToT	海外 Overseas	%ToT	欧州 Europe	%ToT	米州 Americas		%ToT	中国 China	%ToT	アジア Asia and others	%ToT	合計 WW	%ToT
心臓血管 カンパニー	TIS	24,055	171,870	47,159	77,869	27,047	20,594	396,025	23,952	-4.4%	216,133	22.2%	53,465	14.4%	101,330	11.0%	34,087	26.0%	27,249	13.4%	240,066	22.2%	18.3%
	ニューロバスキュラー	4,084	38,143	12,362	16,266	6,907	3,117	42,228	4,146	1.2%	48,409	26.0%	14,053	18.7%	21,791	14.0%	8,732	16.8%	3,811	22.3%	52,555	24.3%	8.3%
	カーディオバスキュラー	8,249	27,473	4,899	17,191	1,331	3,919	36,722	7,631	-7.2%	32,671	18.8%	5,023	4.4%	20,631	20.0%	1,733	11.0%	5,261	14.2%	40,302	22.8%	6.3%
	血管	2,088	18,336	10,134	6,073	1,223	830	29,425	2,649	26.8%	23,313	27.1%	11,773	15.9%	9,736	12.0%	1,144	-6.7%	1,160	11.0%	25,963	27.1%	4.2%
	Cardiac and Vascular Company	38,478	255,924	74,487	116,993	36,221	28,312	294,403	38,379	-8.3%	320,528	22.2%	84,316	18.2%	152,990	10.9%	45,737	26.3%	37,483	12.4%	358,907	21.9%	18.2%
メディカルケア ソリューションズ カンパニー	ホスピタルケアソリューション	75,932	20,810	2,076	6,096	1,068	11,720	96,743	76,420	8.0%	23,314	12.0%	1,951	-6.0%	7,832	10.4%	1,530	11.8%	11,999	4.4%	99,725	8.2%	16.7%
	ライフケアソリューション	17,437	2,906	619	23	832	1,400	20,343	16,778	-8.2%	2,411	-17.0%	594	-4.1%	-	-100.0%	917	7.6%	899	-99.1%	19,189	-5.7%	3.1%
	ファーマシューティカルソリューション	14,294	7,332	4,587	1,311	144	708	21,646	16,930	18.0%	9,635	11.1%	6,105	23.4%	2,168	24.4%	305	112.4%	1,036	49.0%	26,585	21.8%	4.3%
	Medical Care Solutions Company	107,664	31,069	7,682	7,543	2,005	13,837	138,733	110,149	2.3%	35,361	13.8%	8,650	12.6%	10,001	12.6%	2,754	17.3%	13,955	9.9%	145,511	4.9%	23.2%
血液・細胞 テクノロジー カンパニー	血液センター	8,307	58,075	16,829	21,982	5,244	14,013	66,382	7,865	-5.3%	76,480	31.7%	19,714	17.1%	30,993	41.0%	6,793	29.3%	18,979	33.4%	84,346	27.1%	13.6%
	アブジェンシス治療他	390	17,161	4,363	8,645	984	2,340	17,462	377	12.0%	21,323	24.2%	5,077	16.4%	12,574	19.4%	1,076	19.0%	2,594	12.4%	21,701	24.2%	3.2%
	細胞治療	92	6,216	653	5,145	229	200	6,309	85	-7.8%	7,254	16.7%	856	11.1%	5,804	12.8%	265	15.7%	338	17.6%	7,540	16.6%	1.2%
	Blood and Cell Technologies Company	8,790	81,453	21,827	26,772	6,378	16,475	90,154	8,329	-4.2%	105,058	29.0%	25,648	17.3%	49,372	44.3%	8,126	17.3%	21,901	15.2%	113,388	23.0%	18.3%
	その他	190	-	-	-	-	-	190	186	-2.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	186	-2.4%	0.0%
	合計	155,014	368,447	103,997	161,219	44,665	59,625	523,482	157,044	1.8%	460,948	21.1%	118,615	14.1%	212,363	11.7%	56,628	27.0%	73,241	21.1%	617,993	18.1%	100.0%
	売上比率 % to Total	29.6%	70.4%	19.9%	38.5%	8.3%	11.2%	100.0%	25.4%		74.6%												

(前年平均対比)

(Average Exchange Rates)

(USD)=¥111.149

(EUR)=¥130.680

(USD)=¥126.500

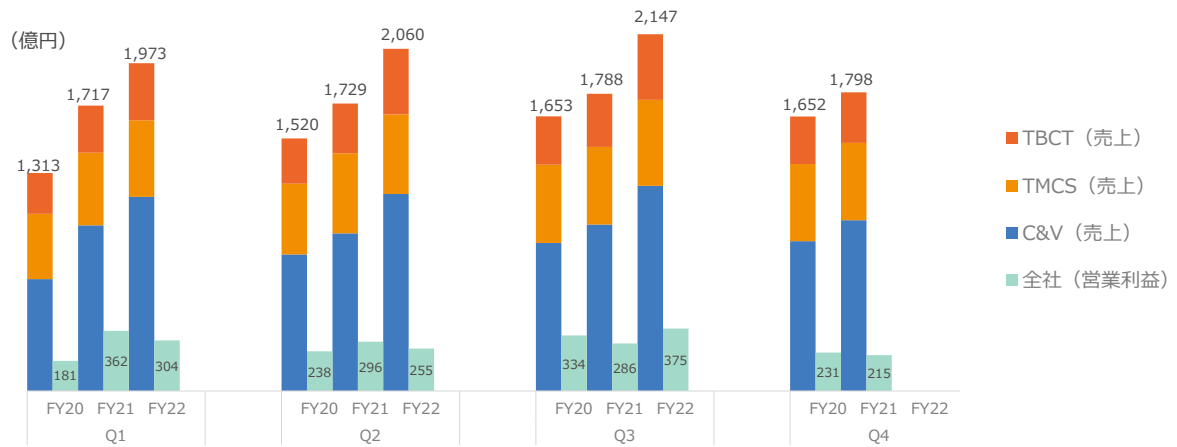
(EUR)=¥140.600

* 2022年度より、従来の「ホスピタルケアソリューション」のセグメント名称を「メディカルケアソリューションズカンパニー」に変更しています。なお、サブセグメントについては、従来の「血液・細胞テクノロジーカンパニー」の「ホスピタルケアソリューション」に「DMヘルスケア事業」が「ライフケアソリューション」に、「ファーマシューティカルソリューション」に「ホスピタルケアソリューション」に変更されています。これに伴い、2021年度の数値も、変更後の名称で記載しています。

売上収益・営業利益の四半期推移

売上収益： Q3は前同比20%伸長、四半期として過去最高。QoQでは4%伸長

営業利益： Q3は前同比31%伸長。QoQでは47%伸長



P&L（四半期推移）

（億円）

	FY21 Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY22 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	
売上収益	1,788	1,798	1,973	2,060	2,147	
売上総利益	926 (51.8%)	905 (50.3%)	1,016 (51.5%)	1,054 (51.1%)	1,114 (51.9%)	
一般管理費	507 (28.4%)	528 (29.4%)	566 (28.7%)	605 (29.4%)	615 (28.6%)	
研究開発費	128 (7.2%)	144 (8.0%)	141 (7.1%)	157 (7.6%)	159 (7.4%)	
その他収益費用	-5	-18	-6	-37	35	
営業利益	286 (16.0%)	215 (12.0%)	304 (15.4%)	255 (12.4%)	375 (17.5%)	
調整後営業利益	330 (18.5%)	273 (15.2%)	359 (18.2%)	345 (16.8%)	392 (18.2%)	
四半期	USD	114円	116円	130円	138円	142円
平均レート	EUR	130円	130円	138円	139円	144円

販管費（四半期推移）

		(億円)				
		FY21 Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY22 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
人件費		255	256	298	312	316
販促費		44	45	46	44	52
物流費		39	41	44	47	49
償却費		51	54	56	59	60
その他		118	132	123	142	138
一般管理費計		507	528	566	605	615
(%)		(28.4%)	(29.4%)	(28.7%)	(29.4%)	(28.6%)
研究開発費		128	144	141	157	159
(%)		(7.2%)	(8.0%)	(7.1%)	(7.6%)	(7.4%)
販管費合計		635	672	706	761	774
(%)		(35.5%)	(37.3%)	(35.8%)	(37.0%)	(36.0%)
四半期	USD	114円	116円	130円	138円	142円
平均レート	EUR	130円	130円	138円	139円	144円

販管費（前年同期比）

（億円）

	FY21 Q3累計	FY22 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率	FY21 Q3	FY22 Q3	増減	増減率
人件費	753	926	172	23%	7%	255	316	61	24%
販促費	114	142	27	24%	13%	44	52	8	17%
物流費	117	140	24	21%	9%	39	49	10	26%
償却費	149	175	26	18%	9%	51	60	9	19%
その他	330	402	73	22%	11%	118	138	20	17%
一般管理費計	1,463	1,785	323	22%	9%	507	615	108	21%
(%)	(27.9%)	(28.9%)				(28.4%)	(28.6%)		
研究開発費	375	456	81	22%	8%	128	159	31	24%
(%)	(7.2%)	(7.4%)				(7.2%)	(7.4%)		
販管費合計	1,837	2,241	404	22%	8%	635	774	138	22%
(%)	(35.1%)	(36.3%)				(35.5%)	(36.0%)		

調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY21 Q3累計	FY22 Q3累計	FY21 Q3	FY22 Q3
営業利益	945	935	286	375
調整① 買収無形資産の償却費	118	144	39	49
調整② 一時的な損益	9	17	5	-32
調整後営業利益	1,072	1,096	330	392

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の主な項目	FY21 Q3累計	FY22 Q3累計
事業再編費用	6	16
細胞処理事業の一部売却に関わるのれんの減損	-	36
栄養事業の事業等売却益	-	-39
その他	2	4

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

	FY19	FY20	FY21	FY22 Q3累計	FY22予想
設備投資	895	772	692	511	750
償却費	477	484	532	474	635
買取無形償却費	157	146	161	144	173
それ以外	320	338	371	330	462

設備投資は建設仮勘定計上ベース、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

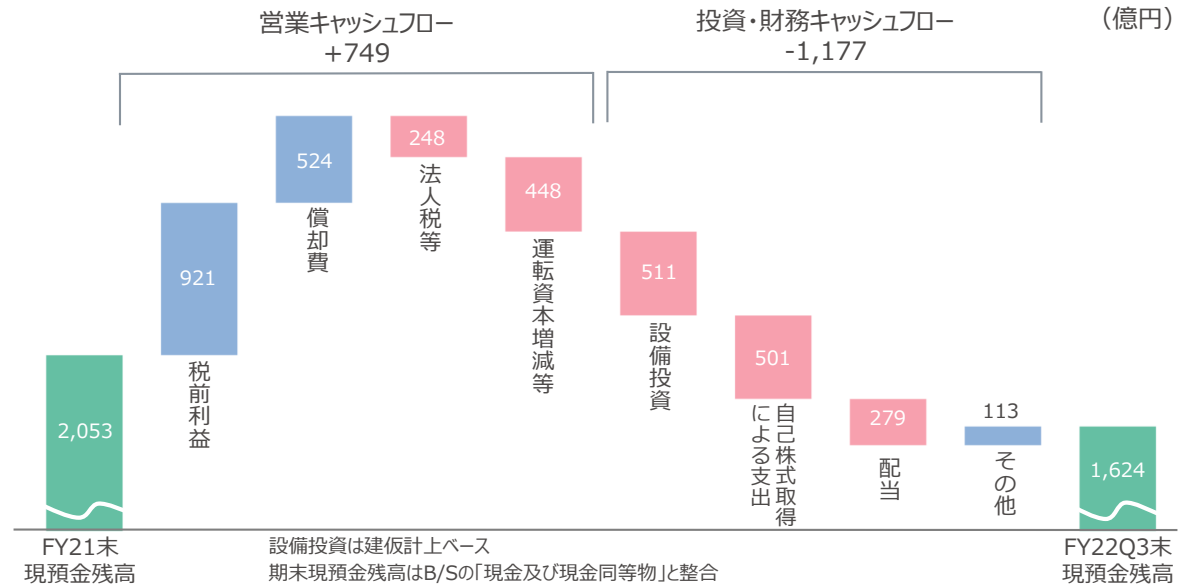
■ 22年度Q3累計実績（511億円）：主にTIS、ニューロ、PS、血液・細胞テクノロジー等の増産設備、原料血漿採取関連、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

■ 「設備投資」FY22予想の修正：案件の進捗状況を加味

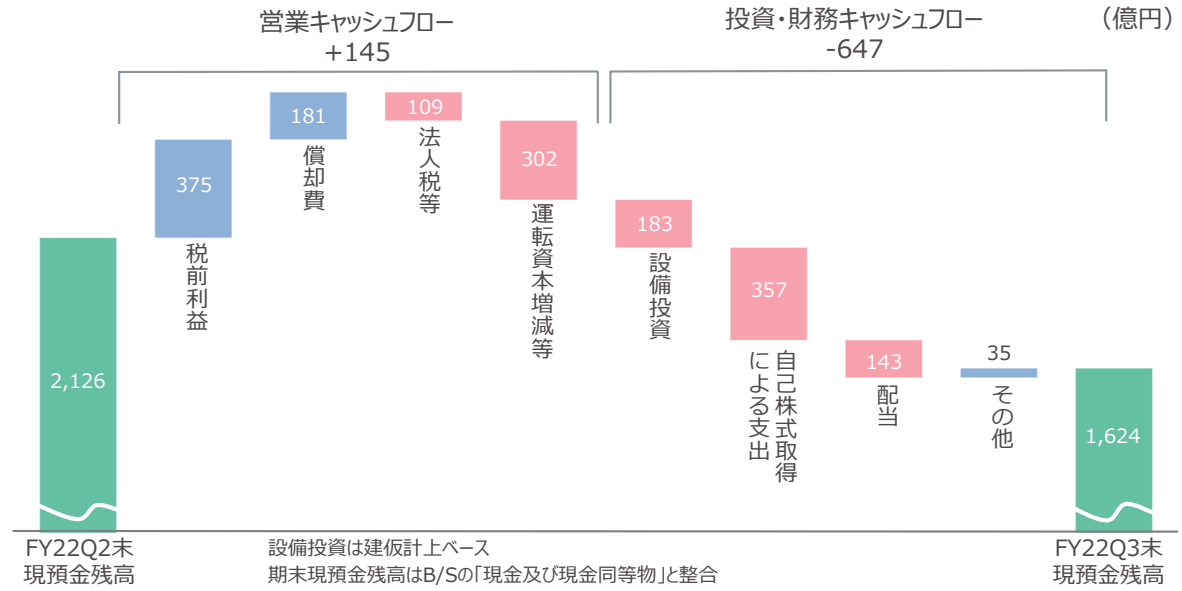
	FY19	FY20	FY21	FY22 Q3累計	FY22予想
研究開発費	506	491	518	456	600

■ FY22予想の修正：為替レート見直しによる修正

キャッシュフロー（Q3累計）



キャッシュフロー（Q3）



FY22 為替影響の内訳（フロー・ストック）

対FY21 為替影響 +84億円

フロー Q3累計 +90億円：ユーロ高・中国元高によるプラス効果

レート（円）	FY21Q3累計 期中平均	FY22Q3累計 期中平均	差異
EUR	131	141	10
中国元	17.3	19.9	2.6

ストック Q3+25億円、Q3累計－6億円：棚卸資産未実現利益消去への為替影響

- ・12月度に円高が進行しQ3ではプラス効果。年間の影響は-6億円まで縮小。

レート（円）	FY22Q3累計 期中平均	FY22 12月末	差異
USD	136	133	-4
EUR	141	142	1

為替感応度

1円の円安に対しての年間影響額 (億円)

	USD	EUR	中国元
売上収益	20	9	38
調整後営業利益	1	5	16

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	中国元	その他
調整後営業利益	7	10	74	13	31	36

